

破碎選別処理施設の整備について

1 破碎選別処理施設の概要

(1) 破碎選別処理施設の役割

破碎選別処理施設の役割として、回収した「燃やせないごみ」および「粗大ごみ」を破碎処理することにより、可燃性残さ、不燃性残さおよび資源物に選別する。

可燃性残さを焼却処理することにより、埋立処分量の削減となり、最終処分場の延命化を図ることができる。また、鉄、アルミ等資源物回収の増加が見込まれる。

(2) 破碎選別処理施設の処理方式

破碎選別処理施設の処理フローの例は、図1のとおりである。

なお、近年の動向として、ごみ処理時の安全対策や資源物回収を目的として、異物除去コンベヤを設置し、手選別を行う事例が増加している。

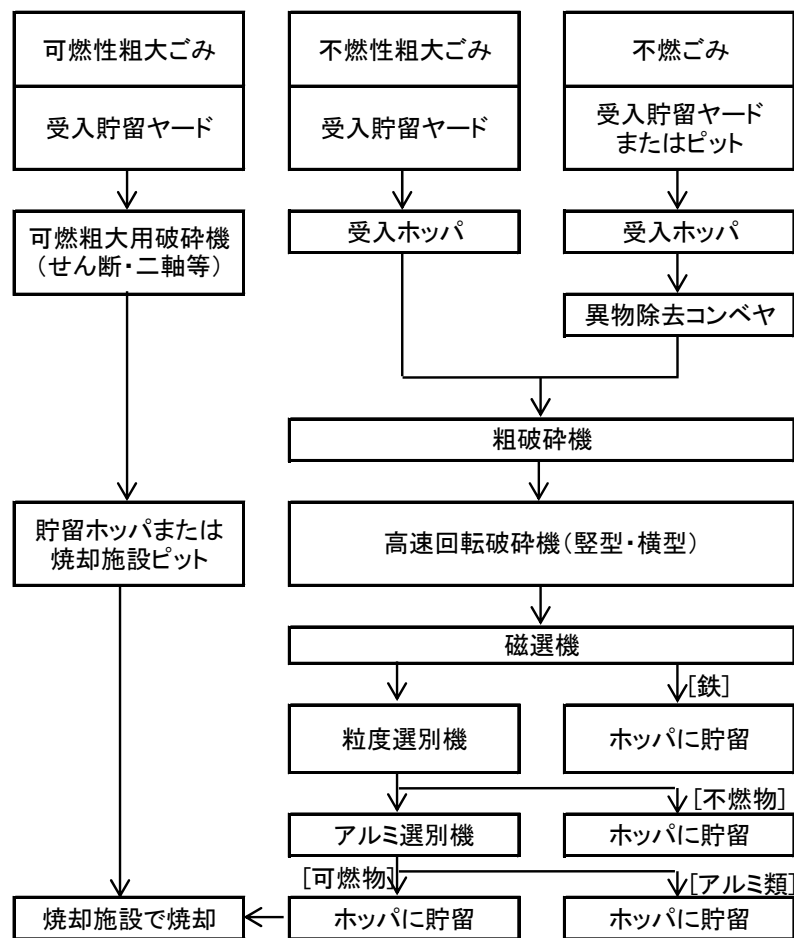


図1 破碎選別処理施設 処理フロー（参考例）

2 他都市の状況

道内主要都市等の破砕選別処理施設の整備状況は、表1のとおりである。

表1 破砕選別処理施設の整備状況（道内主要都市等）

区分	施設名称	供用開始 年度	施設規模 (t/d)	備考
札幌市	発寒破砕工場	H10	150	焼却施設に隣接
	篠路破砕工場	S55	150	焼却施設に併設
	駒岡破砕工場	S61	200	焼却施設に併設
北しりべし廃棄物処理広域連合	北しりべし広域クリーンセンター	H19	36	資源化施設に併設
西いぶり広域連合	西胆振地域廃棄物広域処理施設	H15	47.5	焼却施設に併設
釧路市	粗大ごみ処理センター	H11	80	焼却施設に隣接
十勝環境複合事務組合	くりりんセンター	H8	80	資源化施設に併設
北見市	クリーンライフセンター	H13	65	焼却施設に併設
苫小牧市	沼ノ端クリーンセンター	H11	75	資源化施設に併設
江別市	環境クリーンセンターくるりん	H14	35	資源化施設に併設
青森市	青森市清掃工場	H27	39.8	焼却施設に併設

3 施設規模、破砕選別処理量等

(1) 施設規模は、平成39年度の「燃やせないごみ」および「粗大ごみ」のごみ処理量に基づき算出する。

○計画年間処理量 5,876t/年 (燃やせないごみ 5,316t/年 + 粗大ごみ 560t/年)

○年間実稼働日数 245日

○月変動係数 1.15

○施設規模 $5,876 \div 245 \times 1.15 = 27.58$

$= 28\text{t/日}$

施設規模は、28t/日と算定する。

(2) 破砕選別処理量

破砕選別処理施設を設置した場合の処理内訳への効果について、道内他都市の事例を参考に推計する。

その結果、埋立処分量については、平成39年度で3,046tの削減が見込まれ、稼働後20年間(平成39～58年度)で約55,000tの削減が推計される。

また、同様に資源化量について、平成39年度で250tの増加が見込まれ、稼働後20年間(平成39～58年度)で約5,000tの増加が推計される。

表2 破碎選別処理施設設置による処理量（平成39年度）

（単位：t）

区分		設置前	設置後	差引
		A	B	B-A
燃やせないごみ・粗大ごみ		5,876	5,876	0
処理内訳	焼却	553	3,349	2,796
	埋立	4,809	1,763	△ 3,046
	資源化	514	764	250
	計	5,876	5,876	0

4 施設建設費・維持管理費等

施設建設費について、近年の他都市の事例等から施設規模（t）当たり 80,000 千円と想定し、本市の施設規模 28t/日に対して、約 22.4 億円が見込まれる。

また、維持管理費について、同時に近年の他都市の事例等から処理量（t）当たり 20,000円と想定し、本市の平成39年度処理量5,876t に対して、約1.2億円、20年間で約21.2億円が見込まれる。